

DRUG

INFORMATION

2002 No. 33

岐阜大学医学部附属病院薬剤部
医薬品情報管理室（内線2834）

平成14年12月3日発行

目 次

X 線・MRI 造影剤の使用上の注意について

※ Drug Information は医学部ホームページの下記アドレスにて提供しています。
<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/drug-info/index.htm>

X 線・MRI 造影剤の使用上の注意について

主な造影剤の安全性情報をお知らせします。詳細については、添付文書を参照して下さい。使用に当たっては、特に以下の点に注意して下さい。

1. 十分な問診を行い、禁忌等に該当しないことを確認すること。
2. 副作用が発生した場合の対処法を熟知してから投与すること。
3. 投与中は慎重に患者を観察すること。
4. 遅発性の副作用にも留意すること。

X 線造影剤の使用上の注意 (1)

	ウログラフィン 60%	ビリスコピン DIC 50	イオパミロン 150, 300, 370	イオメロン 300, 350, 400	オブチレイ 320, 350
警告	1.ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。 2.本剤を脳・脊髄腔内に投与すると重篤な副作用が発現するおそれがあるので、脳槽・脊髄造影には使用しないこと。	1.ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。 2.本剤を脳・脊髄腔内に投与すると重篤な副作用が発現するおそれがあるので、脳槽・脊髄造影には使用しないこと。	1.ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。 2.本剤は尿路・血管用造影剤であり、特に高濃度製剤(370mgI/mL)については脳・脊髄腔内に投与すると重篤な副作用が発現するおそれがあるので、脳槽・脊髄造影には使用しないこと。	1.ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。 2.本剤を脳・脊髄腔内に投与すると重篤な副作用が発現するおそれがあるので、脳槽・脊髄造影には使用しないこと。	1.ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。 2.本剤を脳・脊髄腔内に投与すると重篤な副作用が発現するおそれがあるので、脳槽・脊髄造影には使用しないこと。
禁忌	1.ヨード又はヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者 2.重篤な甲状腺疾患のある患者	1.ヨード又はヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者 2.重篤な甲状腺疾患のある患者	1.ヨード又はヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者 2.重篤な甲状腺疾患のある患者	1.ヨード又はヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者 2.重篤な甲状腺疾患のある患者	1.ヨード又はヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者 2.重篤な甲状腺疾患のある患者
原則禁忌	1.一般状態の極度に悪い患者 2.気管支喘息の患者 3.重篤な心障害のある患者 4.重篤な肝障害のある患者 5.重篤な腎障害(無尿等)のある患者 6.急性肺炎の患者 7.マクログロブリン血症の患者 8.多発性骨髄腫の患者 9.テタニーのある患者 10.褐色細胞腫の患者及びその疑いのある患者	1.一般状態の極度に悪い患者 2.気管支喘息の患者 3.重篤な心障害のある患者 4.重篤な肝障害のある患者 5.重篤な腎障害(無尿等)のある患者 6.マクログロブリン血症の患者 7.テタニーのある患者 8.褐色細胞腫の患者及びその疑いのある患者	1.一般状態の極度に悪い患者 2.気管支喘息の患者 3.重篤な心障害のある患者 4.重篤な肝障害のある患者 5.重篤な腎障害(無尿等)のある患者 6.急性肺炎の患者 7.マクログロブリン血症の患者 8.多発性骨髄腫の患者 9.テタニーのある患者 10.褐色細胞腫の患者及びその疑いのある患者	1.一般状態の極度に悪い患者 2.気管支喘息の患者 3.重篤な心障害のある患者 4.重篤な肝障害のある患者 5.重篤な腎障害のある患者 6.急性肺炎のある患者 7.マクログロブリン血症の患者 8.多発性骨髄腫のある患者 9.テタニーのある患者 10.褐色細胞腫のある患者及びその疑いのある患者	1.一般状態の極度に悪い患者 2.気管支喘息の患者 3.重篤な心障害のある患者 4.重篤な肝障害のある患者 5.重篤な腎障害(無尿等)のある患者 6.急性肺炎の患者 7.マクログロブリン血症の患者 8.多発性骨髄腫のある患者 9.テタニーのある患者 10.褐色細胞腫のある患者及びその疑いのある患者
慎重投与	1.本人又は両親・兄弟に発疹・蕁麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者 2.薬物過敏症の既往歴のある患者 3.脱水症状のある患者 4.高血圧症の患者 5.動脈硬化のある患者 6.糖尿病の患者 7.甲状腺疾患のある患者 8.腎機能が低下している患者 9.高齢者 10.幼・小児	1.本人又は両親・兄弟に発疹・蕁麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者 2.薬物過敏症の既往歴のある患者 3.脱水症状のある患者 4.高血圧症の患者 5.動脈硬化のある患者 6.糖尿病の患者 7.甲状腺疾患のある患者 8.多発性骨髄腫のある患者 9.高齢者 10.幼・小児	1.本人又は両親・兄弟に発疹・蕁麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者 2.薬物過敏症の既往歴のある患者 3.脱水症状のある患者 4.高血圧症の患者 5.動脈硬化のある患者 6.糖尿病の患者 7.甲状腺疾患のある患者 8.肝機能が低下している患者 9.腎機能が低下している患者 10.高齢者 11.幼・小児	1.本人又は両親・兄弟に気管支喘息・発疹・蕁麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者 2.薬物過敏症の既往歴のある患者 3.脱水症状のある患者 4.高血圧症の患者 5.動脈硬化のある患者 6.糖尿病の患者 7.甲状腺疾患のある患者 8.肝機能が低下している患者 9.腎機能が低下している患者 10.重症筋無力症の患者 11.中枢神経系障害のある患者 12.高齢者 13.幼・小児	1.本人又は両親・兄弟に気管支喘息・発疹・蕁麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者 2.薬物過敏症の既往歴のある患者 3.脱水症状のある患者 4.高血圧症の患者 5.動脈硬化のある患者 6.糖尿病の患者 7.甲状腺疾患のある患者 8.肝機能が低下している患者 9.腎機能が低下している患者 10.高齢者 11.幼・小児
重大な副作用	1.ショック 2.アナフィラキシー様症状 3.急性腎不全 4.痙攣発作 5.肺水腫 6.重症筋無力症の悪化	1.ショック 2.アナフィラキシー様症状 3.急性腎不全	1.ショック 2.アナフィラキシー様症状 3.急性腎不全 4.肺水腫 5.譫妄、錯乱、健忘症 6.血小板減少 7.痙攣発作 8.麻痺 9.肝機能障害、黄疸 10.心室細動、冠動脈攣縮 11.Stevens-Johnson 症候群	1.ショック 2.アナフィラキシー様症状 3.肺水腫 4.成人呼吸窮迫症候群 5.心室細動、冠動脈攣縮 6.肝機能障害、黄疸 7.脳血管障害 8.痙攣発作 9.麻痺 10.急性腎不全 11.血小板減少 12.Stevens-Johnson 症候群	1.ショック 2.アナフィラキシー様症状 3.心室細動、冠動脈攣縮 4.急性腎不全 5.肺水腫 6.失神 7.痙攣発作 8.麻痺 9.肝機能障害、黄疸 10.血小板減少 11.脳血管障害 12.Stevens-Johnson 症候群

Ⅹ 線造影剤の使用上の注意 (2)

	オムニパーク 240	オムニパーク 300, 350	プロスコープ 300, 370	リピオドールウルトラフルイド
警告	1.ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。	1.ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。 2.本剤は尿路・血管用造影剤であり、特に高濃度製剤(350mgI/mL)については、脳・脊髄腔内に投与すると重篤な副作用が発現するおそれがあるので、脳槽・脊髄造影には使用しないこと。	1.ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。 2.本剤は尿路・血管用造影剤であり、特に高濃度製剤(370mgI/mL)については脳・脊髄腔内に投与すると重篤な副作用が発現するおそれがあるので、脳槽・脊髄造影には使用しないこと。	1.ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。
禁忌	1.既往歴を含め痙攣・てんかん及びその素質がある患者 2.ヨード又はヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者 3.重篤な甲状腺疾患のある患者	1.ヨード又はヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者 2.重篤な甲状腺疾患のある患者	1.ヨード又はヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者 2.重篤な甲状腺疾患のある患者	1.ヨード過敏症の既往歴のある患者 2.重篤な甲状腺疾患のある患者 3.妊婦又は妊娠している可能性のある患者(子宮卵管撮影)
原則禁忌	1.一般状態の極度に悪い患者 2.気管支喘息の患者 3.重篤な心障害のある患者 4.重篤な肝障害のある患者 5.重篤な腎障害(無尿等)のある患者 6.急性膀胱炎の患者 7.マクログロブリン血症の患者 8.多発性骨髄腫の患者 9.テタニーのある患者 10.褐色細胞腫の患者及びその疑いのある患者	1.一般状態の極度に悪い患者 2.気管支喘息の患者 3.重篤な心障害のある患者 4.重篤な肝障害のある患者 5.重篤な腎障害(無尿等)のある患者 6.急性膀胱炎の患者 7.マクログロブリン血症の患者 8.多発性骨髄腫の患者 9.テタニーのある患者 10.褐色細胞腫の患者及びその疑いのある患者	1.一般状態の極度に悪い患者 2.気管支喘息の患者 3.重篤な心障害のある患者 4.重篤な肝障害のある患者 5.重篤な腎障害のある患者 6.急性膀胱炎の患者 7.マクログロブリン血症の患者 8.多発性骨髄腫の患者 9.テタニーのある患者 10.褐色細胞腫のある患者及びその疑いのある患者	1.一般状態の極度に悪い患者 2.重篤な心障害のある患者 3.重篤な肝障害のある患者(リンパ系撮影) 4.重篤な腎障害(無尿等)のある患者(リンパ系撮影) 5.呼吸機能の著しく低下している患者(リンパ系撮影) 6.リンパ管閉塞の明らかな患者、急性耳下腺炎又はリンパ系に炎症のある患者(リンパ系撮影)
慎重投与	1.本人又は両親・兄弟に気管支喘息・発疹・蕁麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者 2.薬物過敏症の既往歴のある患者 3.脱水症状のある患者 4.高血圧症の患者 5.動脈硬化のある患者 6.糖尿病の患者 7.甲状腺疾患のある患者 8.アルコール中毒患者 9.慢性呼吸器系疾患の患者 10.高齢者 11.幼・小児	1.本人又は両親・兄弟に気管支喘息・発疹・蕁麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者 2.薬物過敏症の既往歴のある患者 3.脱水症状のある患者 4.高血圧症の患者 5.動脈硬化のある患者 6.糖尿病の患者 7.甲状腺疾患のある患者 8.肝機能が低下している患者 9.腎機能が低下している患者 10.高齢者 11.幼・小児	1.本人又は両親・兄弟に気管支喘息・発疹・蕁麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者 2.薬物過敏症の既往歴のある患者 3.脱水症状のある患者 4.高血圧症の患者 5.動脈硬化のある患者 6.糖尿病の患者 7.甲状腺疾患の患者 8.肝機能が低下している患者 9.腎機能が低下している患者 10.高齢者 11.幼・小児	1.本人又は両親・兄弟に気管支喘息・発疹・蕁麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者 2.甲状腺疾患のある患者
重大な副作用	1.ショック 2.痙攣発作 3.アナフィラキシー様症状 4.麻痺、髄膜炎	1.ショック 2.アナフィラキシー様症状 3.急性腎不全 4.痙攣発作 5.肺水腫 6.肝機能障害、黄疸 7.心室細動、冠動脈収縮 8.Stevens-Johnson 症候群 9.血小板減少 10.一過性麻痺、失神、意識消失	1.ショック 2.アナフィラキシー様症状 3.急性腎不全 4.肺水腫 5.痙攣発作 6.心室細動 7.血小板減少 8.肝機能障害、黄疸	1.ショック 2.肺炎、肺塞栓 3.脳塞栓

MRI 造影剤の使用上の注意

	オムニスキャン	プロハンス	マグネビスト	フェリデックス
警告	1.本剤を髄腔内に投与すると重篤な副作用を発現するおそれがあるので髄腔内には投与しないこと。	1.本剤を脳・脊髄腔内に投与すると重篤な副作用が発現するおそれがあるので脳・脊髄腔内には投与しないこと。	1.ショック、アナフィラキシー様症状等の重篤な副作用が発現することがある。特に気管支喘息の患者ではそれ以外の患者よりも高い頻度で重篤な副作用が発現するおそれがある。 2.本剤の投与にあたっては、必ず救急処置の準備を行うこと。 3.本剤を髄腔内に投与すると重篤な副作用を発現するおそれがあるので、髄腔内には投与しないこと。	
禁忌		1.本剤投与により重篤な副作用がみられた患者		1.一般状態の極度に悪い患者 2.ヘモクロマトーシス等鉄過剰症の患者 3.本剤又は鉄注射剤に過敏症の既往歴のある患者
原則禁忌	1.一般状態の極度に悪い患者 2.気管支喘息の患者 3.重篤な腎障害のある患者 4.重篤な肝障害のある患者	1.一般状態の極度に悪い患者 2.気管支喘息のある患者 3.重篤な腎障害のある患者 4.初回投与時に副作用がみられ追加投与を行う必要がある患者	1.一般状態の極度に悪い患者 2.気管支喘息の患者 3.重篤な肝障害のある患者 4.重篤な腎障害のある患者	
慎重投与	1.アレルギー性鼻炎・発疹・蕁麻疹等を起こしやすいアレルギー体質を有する患者 2.両親・兄弟に気管支喘息・アレルギー性鼻炎・発疹・蕁麻疹等を起こしやすいアレルギー体質を有する患者 3.薬物過敏症の既往歴のある患者 4.既往歴を含めて痙攣・てんかんおよびその素質のある患者 5.高齢者	1.アレルギー性鼻炎・発疹・蕁麻疹等をおこしやすいアレルギー体質を有する患者 2.両親・兄弟に気管支喘息・アレルギー性鼻炎・発疹・蕁麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者 3.薬物過敏症の既往歴のある患者 4.既往歴を含めて痙攣・てんかん及びその素質のある患者 5.高齢者 6.小児	1.アレルギー性鼻炎・発疹・蕁麻疹等を起こしやすいアレルギー体質を有する患者 2.両親・兄弟に気管支喘息・アレルギー性鼻炎・発疹・蕁麻疹等を起こしやすいアレルギー体質を有する患者 3.薬物過敏症の既往歴のある患者 4.既往歴を含めて痙攣・てんかん及びその素質のある患者 5.高齢者 6.幼・小児	1.本人又は両親・兄弟に気管支喘息・発疹・蕁麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者 2.薬物過敏症の既往歴のある患者 3.貧血治療のため鉄剤を投与している患者 4.発作性夜間血色素尿症の患者 5.重篤な肝機能障害のある患者
重大な副作用	1.ショック 2.アナフィラキシー様症状 3.痙攣発作	1.ショック 2.アナフィラキシー様症状 3.痙攣発作	1.ショック 2.アナフィラキシー様症状 3.痙攣発作	1.ショック 2.アナフィラキシー様症状